設立30周年を迎えた国際医療NGO「AMDA」理事長

# 成沢（なりさわ） 貴子（たかこ）さん(56)

ひと

世界30カ国に医師のネットワークを広げ、被災地や紛争地で医療活動を行う国際医療NGO「AMDA」（アムダ）。昨年11月、その2代目理事長に就いた。

岡山市北区で母、大学1年の娘と3人暮らし。保育士免許を持ち、保育園や障害児施設での勤務経験もある。

今月の30周年を機に、新設のクアラルンプール事務所に拠点を移した菅波茂・前理事長(67)に代わり、岡山市の本部を切り盛りする。「国際貢献だとか、大それたことは思っていない」と気負いはない。

1981年、ポル・ポト政権崩壊に伴うカンボジア難民流出を報じる新聞を読み、東京のNGOの求人に応募した。タイの難民キャンプで1年間過ごし、身内を失った人や遺体を運んだという男の子に出会った時の「なんでこんなことに」との思いが活動の原点だ。

ベトナム戦争後に小舟で国外へ逃れた「ボートピープル」の勉強会を通じて菅波さんと知り合い、93年、AMDAへ。職員の安全確保や医師との日程調整を担当してきた。98年にアフガニスタンからタリバン政権の要人を招いた時は「戦いの中にある人の気迫」に触れ、2005年に内戦の仲介事業で訪れたスリランカでは傷つきながらも美しい国土を見た。危険な場所に医師らを送り出す精神的な厳しさを異文化への好奇心が支える。

AMDAは活動資金を寄付で賄っているため、念頭には常に「民間の気持ちに沿った活動」がある。今後力を入れたいのは学生ボランティアの受け入れなど人材育成。

「次世代に伝えることで支援に応えたい」

文と写真・五十嵐朋子

2014・8・15